

『われらにとって美は存在するか・服部達著』

椎窓 猛

昭和31年9月、近代生活社刊行。定価250円。著者服部達は昭和31年1月1日、清里村キリスト教団センター寮に遺書を残し、自殺。33才。のちに彼をモデルに作家安岡章太郎が「舌出し天使」と題した小説を書いている。彼は昭和28年前後、新進評論家として注目されていた。同人誌『隊商』に参加していたころ、私の短篇「メロン交歓」を推挙してくれたことがあり、以来、忘れ得ぬ人のひとりとして今も胸に焼きついている。おそらく、この評論集一冊を大事に稀観本として大切に所蔵しているものは、果して今、幾人存在するものか。久しぶりにとりだして、昭和28年発表の「掘田善衛論」を読み返して鮮度は古びていない。つぎのような一節をとりだしても首肯されるのではないかと思う。

「中国に進攻した日本軍が、その最盛期においてさえ、実質的には「点と線」でかろうじて支配力を保っていたに過ぎず、従って大陸の茫漠たる広さに対してひそかに畏怖の念を抱いたであろうことは想像にかたくない。それはおそらく、駟足の近代化で中国を追い抜いた日本人一般が、かつての文化の師に対して抱く遠い崇敬の記憶につながっているのだが——掘田もまた、眼のあたりに見る中国人の悠々とした態度や生活感情の奥行きの高さや……」服部達の中国観もまた奥行きを改めて私は感受するのだ。

著者は山田市で開業のお医者さん。1932年東京生まれだが、3歳より筑豊育ち。「川筋の詩」と題し、続、続とあいついで3冊のエッセー集刊



行。この4冊は「医者」としての仕事そのままズバリ＝題にしたとあとがきにしたためられている。読みとおして、常識をかえりみない昨今の世相に「良識」をとらえられた医者椅子からの啓示の書として愛読される。例えば、患者が坐る椅子と医者が坐る椅子のちがいにについても診察がしやすいように——。なにも医者が尊大にかまえているわけではないと説かれる。

“白鳥は悲しからずや 空の青海の青にも染まず漂う”かの有名な若山牧水の歌から考えてみれば、一度も顔を見たこともない人の作った歌が後の世の人の心をつつとすることは素晴らしいことである。この牧水も私の心の片隅に残っているようで、時には彼の歌が自然に口を衝いて出て来る。牧水は宮崎の人。延岡から更に宮崎市に向かう国道10号線を行くと右手に高い山が見えてくる。御鈴岳（おすずだけ）である。ここが牧水の故里である。“古里の御鈴の山の哀しさよ、秋も霞の棚引きており”彼の歌の多くは何かしら寂しげと述べられる川筋医者の心懐がゆかしくひびいてくるエッセー集でもある。

この本は、葦書房久本三多さんの世話によるもの。亡き久本社長の目くばりのよさというものがしのばれてもきた。川筋山田から筑後の「自分史図書館」への御恵贈というのも有難い「縁」である。

黄櫨の会・自分史図書館だより

ya

No. 29

2007.5.10

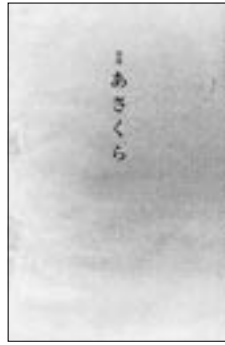
平成19年5月10日 筑後市野町428-8
〒833-0032・TEL 0942・53・8122

これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。

自分史図書館

入館無料
開館 午前9時～午後5時
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。
貸し出しはしていません。

〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitsosyokan



○福岡県の城

廣崎篤夫

著者は1935年北九州に生まれ福岡学芸大卒業。槻田中教諭。日本城郭史学会、古代山城研究会員など、城址研究有数の人と察知される。

この一冊には、県内くまなく城址その来歴が説かれている。教職のかたわら、確かに自らの足で、観察、こと細やかに記述されたその熱情に感服させられる。

八女一帯でも立花山下城、兼松城、矢部村のアイノツル城、栗原城など、ほとんど忘却の彼方に忘れさられようとした古城の由来が説かれている。

郷土愛などと申すならば、こんな一冊から眼をひらくべきであろう。

都府村の太基礎石や草萌ゆる
寒人の和つなぐど若菜摘む
阿蘇の神まぼろば古賀幹人
蘇谷は神のまぼろば若菜摘む

古里の思ひ出誘う藪椿
母の声聞きし安堵初電話
春立ちの風優しや顔に受け

水郷の恵蘇の水門はや五月
うたの寝に妻の灯高く
寒行の先達僧の言や春炬燵
寒行の先達僧の言や春炬燵

石立人の深き眠りに透すぐもり
鶺鴒の巣のあらはなり寒の月
鶺鴒の巣のあらはなり寒の月

句集 あさくら

○信じて、待って、寄り添って

高橋茂雄

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」

これは井上ひさしの言葉ですが、教えるということとは、こういうことなんだと思います。ゲーテは「やさしさは真実にまさる」と言いましたが、子育てには、何よりやさしさが求められます。やさしさの根っ子は愛です。こんなあとがきを一読したとき、北海道で、転々教職にあった高橋先生の教師生活の信条が見え、内容にその実践力が語られています。

○風の白書

山村正明

440ページ余の大冊の白書。66歳まで、食品事業開発関連の商社サラリーマン生活をかえりみられての労務白書ともいえるが、風は自分の意志で生まれたわけではない——

人の一生も風のようなもの

サラリーマン人生を振り返りその時々で自分が発した風を、他人はどのように感じたか、思い返すと北風のほうが多かったのではないか——40年の足跡を真直に述懐されている。

「新人にパソコン習う課長さん」「課長さんEメールでなく声かけて」こんな川柳もひかれてPC時代の会社を諷刺されてもいる。

受贈図書紹介 ⑬

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

つれづれの記	的場恒孝	久留米市
句集緑の雨	平木谷水	大牟田市
悲恋の女王久津媛	福本英城	日田市
たいしたものはありません	島居祐示	吉井町
福岡県の文学碑現代編	大石實	小郡市
〃 古典編	大石實	小郡市
廣瀬淡窓日記	井上源吾	長崎市
〃 (二)	〃	〃
〃 (三)	〃	〃
〃 (四)	〃	〃
詩集晩鐘かすかに	秋山喜文	大宰府市
直腸切断	寺田健一郎	福岡市
爛漫の春	和田重正	小田原市

まちづくり」を積極的

扱う仕事の依頼雑多上、センスを枯渇させないよう努めるために購読している次第である。

▼6月号には、自治体広報紙「ニセコ町」(北海道)が紹介されている。ニセコは北海道西部、後志支庁管内虻田郡、人口4692人の町だが、「情報共有のまちづくり」を積極的

編集掌記

▼『編集会議』という月刊雑誌がある。私は人生史サークル会誌『黄櫨』をはじめ、文字を取

現町長佐藤隆一氏の意気込みがなんといいってもよろしい。▼この号には、「雑誌のコンセプトを表す書体選び」についての特集もある。活字一つ、フォント決定も紙面づくりには大切。このへんの無神経では読まれない。

(自分史図書館長 椎窓)